

### ●前・後サスペンション

フロントサスペンションには125cc公道モデルとしてHonda初の倒立フォークを採用しました。それにより正立フォークに比べ、フロントまわりの高剛性化を実現しました。また、同クラスの正立フォークよりも内部ピストンの受圧面積を広くとることで、減衰力特性の向上も図りました。バネ下重量の軽減と減衰力特性の向上により、タイヤと路面の追従性が向上し安心感のある操縦特性を実現しました。

また、フロントまわりの高剛性化により、ライダーの操作に対しレスポンス良く反応する軽快感と、二人乗りの際にライダーの操作を確実に伝える応答性を持った操縦特性を実現しました。

リアサスペンションは軽量でシンプルなモノサス構造とし、スプリング荷重や減衰力特性の最適化を図り、一人乗りでの軽快感と二人乗りでの快適な乗り心地を両立するクッション性能を持たせました。

これらによりGROMの前・後サスペンションはファンライドから二人乗りまで最適な走りを提供します。



### ●ホイール、ブレーキ、タイヤ

GROMでは、大型モーターサイクルにも多く採用されている形式の足回り機能部品を、コンパクトな車体に凝縮しました。

新設計のアルミキャストホイールは、大型モーターサイクルをイメージさせるY字スポークデザインとしました。重量増となりがちな小径ワイドリムでありながら、スポーク部を極力細くすることでマスの軽減を図り、市街地などで取り回す際の軽快感に寄与しています。

ブレーキは前φ220mm、後φ190mmの油圧式シングルディスクブレーキとし、コントロール性と制動力向上を図りました。

タイヤは前120/70-12、後130/70-12としました。この極太サイズのタイヤはGROMの骨太なシルエットを決定付け、新世代のストリートバイクであることを主張する重要なアイテムです。従来、特にタイなどでは細身の17インチタイヤ装着が若者間のカスタム手法として定番化していますが、今回Hondaが提案するGROMは、それとは正反対の小径極太タイヤでストリートバイクの新しい価値感を提供します。

